

令和5年度 社会実験報告書



UBE 宇部市
未来を彫刻するまち

目次

1. 令和4年度に実施した実験の課題
2. 実験箇所および期間
3. 実験内容および結果
4. 今後の取組

1. 令和4年度に実施した実験の課題

1. 令和4年度に実施した実験の課題

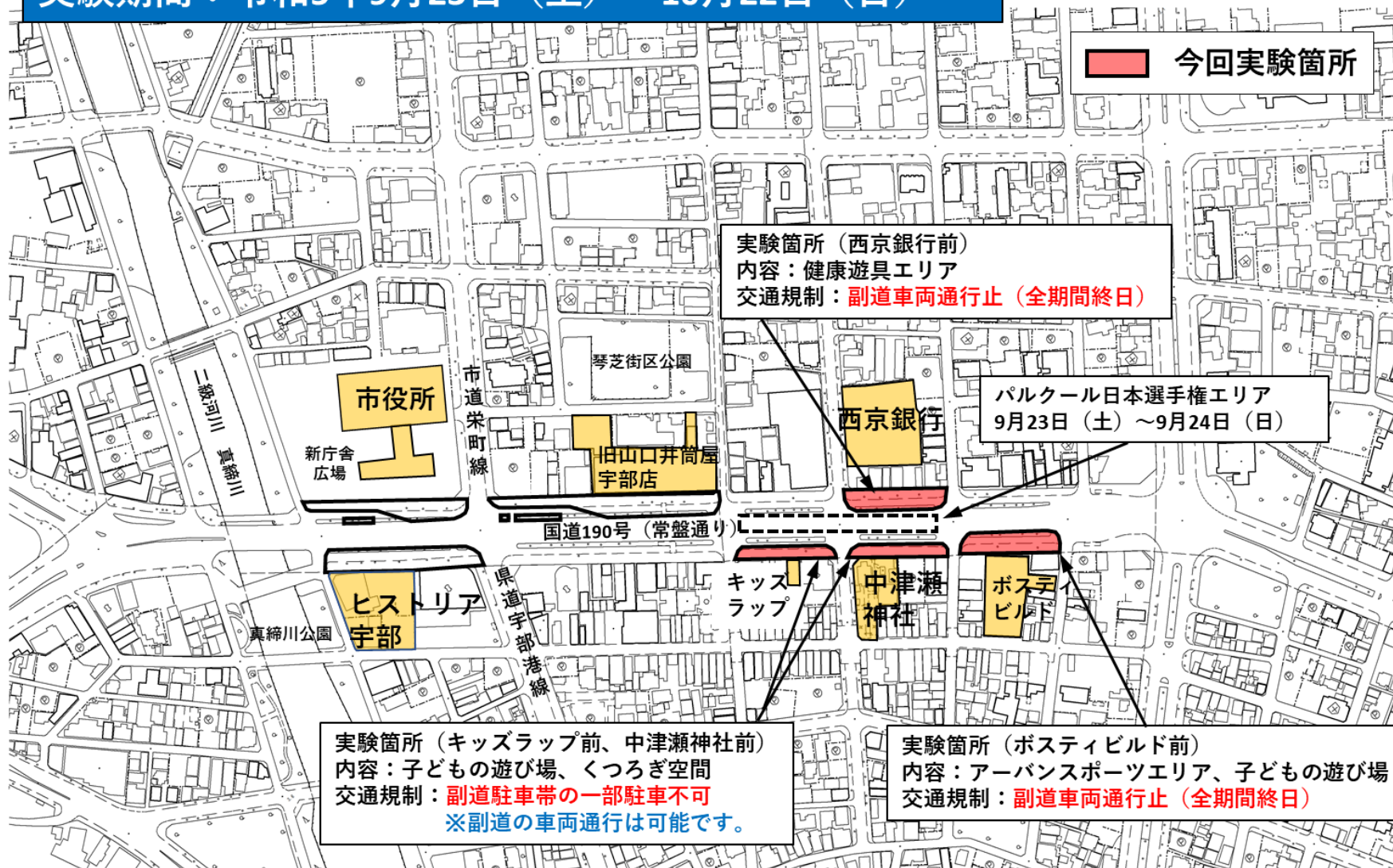
【課題】

- ・いつでも気軽に使える移動手段があれば、もっと足を運ぶのにとの声があった。
⇒新モビリティの運行【実験項目①】
- ・周辺の駐車場が少ない、利用しにくいとの声があった。
⇒AIカメラによる駐車場混雑度の情報発信【実験項目②】
- ・実験前と比べ実験中の滞在人数は増加したものの歩行者通行量は増加しなかった。
⇒歩行者通行量【実験項目③】
⇒AIカメラによる滞在空間の利用状況の分析【実験項目④】
- ・持続可能な管理運営の体制づくりが必要との意見があった。
⇒持続可能な管理運営【実験項目⑤】
- ・自転車導線の検討が必要との意見があった。
⇒自転車と歩行者の通行の安全性【実験項目⑥】
- ・沿道地権者等からスケートボードの音が気になるとの声があった。
⇒アーバンスポーツエリアの騒音対策【実験項目⑦】
- ・道路形態の変更に対する苦情があった。
⇒道路形態の変更（国道190号の車両通行止）による影響【実験項目⑧】

2. 実験箇所および期間

2. 実験箇所および期間

実験期間：令和5年9月23日（土）～10月22日（日）



2. 実験箇所および期間

■ 滞在空間の内容

キッズラップ前
(子どもの遊び場)



中津瀬神社前
(くつろぎ空間)



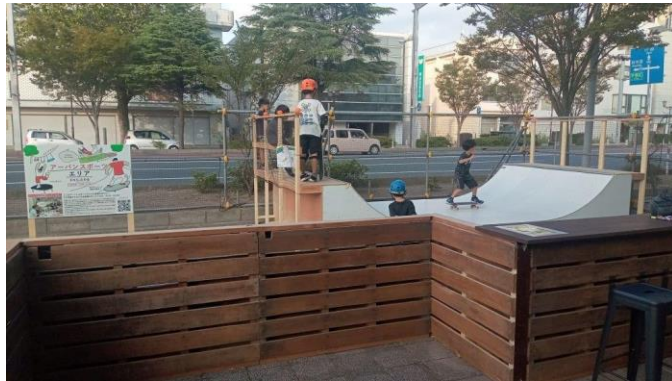
西京銀行前
(健康遊具エリア)



2. 実験箇所および期間

■ 滞在空間の内容

ボスティビルド前
(アーバンスポーツエリア、子どもの遊び場)



3. 実験内容および結果

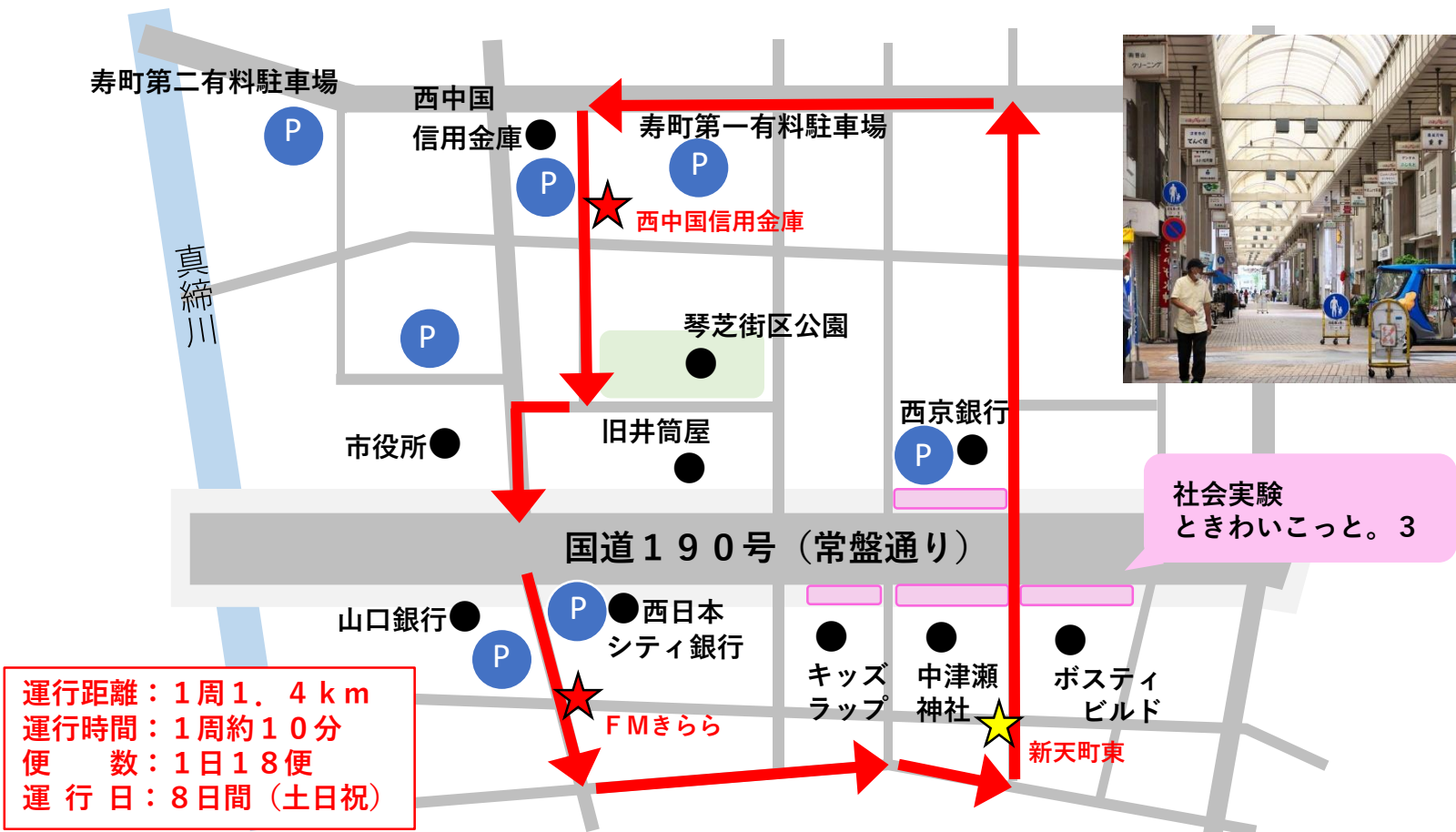
3. 実験内容および結果

【実験項目①】新モビリティの運行

■ グリーンスローモビリティ運行ルート図

★ 社会実験箇所付近乗降場所

★ 駐車場付近乗降場所



3. 実験内容および結果

【実験項目①】 新モビリティの運行

■ グリスロのリアルタイム位置情報発信（交通局バスナビHP）



⇒新モビリティの利用状況や利用者の満足度を検証

3. 実験内容および結果

【実験項目①】新モビリティの運行

■新モビリティの利用者数（目標10人／日）

8日間で88人（平均11人／日）

日付	10月1日	10月7日	10月8日	10月9日	10月14日	10月15日	10月21日	10月22日	合計
曜日	日	土	日	月・祝	土	日	土	日	
大型イベントの有無	無					有			
利用者数	17	5	4	3	9	13	20	17	88

平均11人／日

■新モビリティの安全性（目標ヒヤリハット及び苦情件数0件）

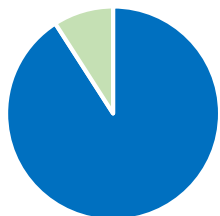
自動車と自転車と歩行者等とのヒヤリハット及び苦情件数は0件

3. 実験内容および結果

【実験項目①】 新モビリティの運行

■利用者へQRコードを用いたアンケート調査

Q. グリスロの満足度（便利さ）はいかがですか。（目標70%以上）



利用者の満足度 20件 / 22件 ≒ 91%

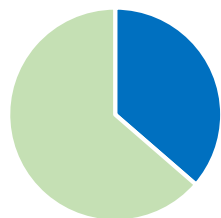
【満足の理由】

- ・楽しい、気軽に乗れる、涼しい、新たな景色が見れる、移動がスムーズ

【不満の理由】

- ・乗り心地が悪い

Q. 本格運行する場合、有料でも利用しますか。



利用する 8件 / 22件 ≒ 36%

Q. いくらまでであれば利用しますか。

A. 100円 / 回 (8件)

グリーンスローモビリティの実験に関するアンケートに御協力ください。



お手持ちの端末でQRコードを読み取ってください。

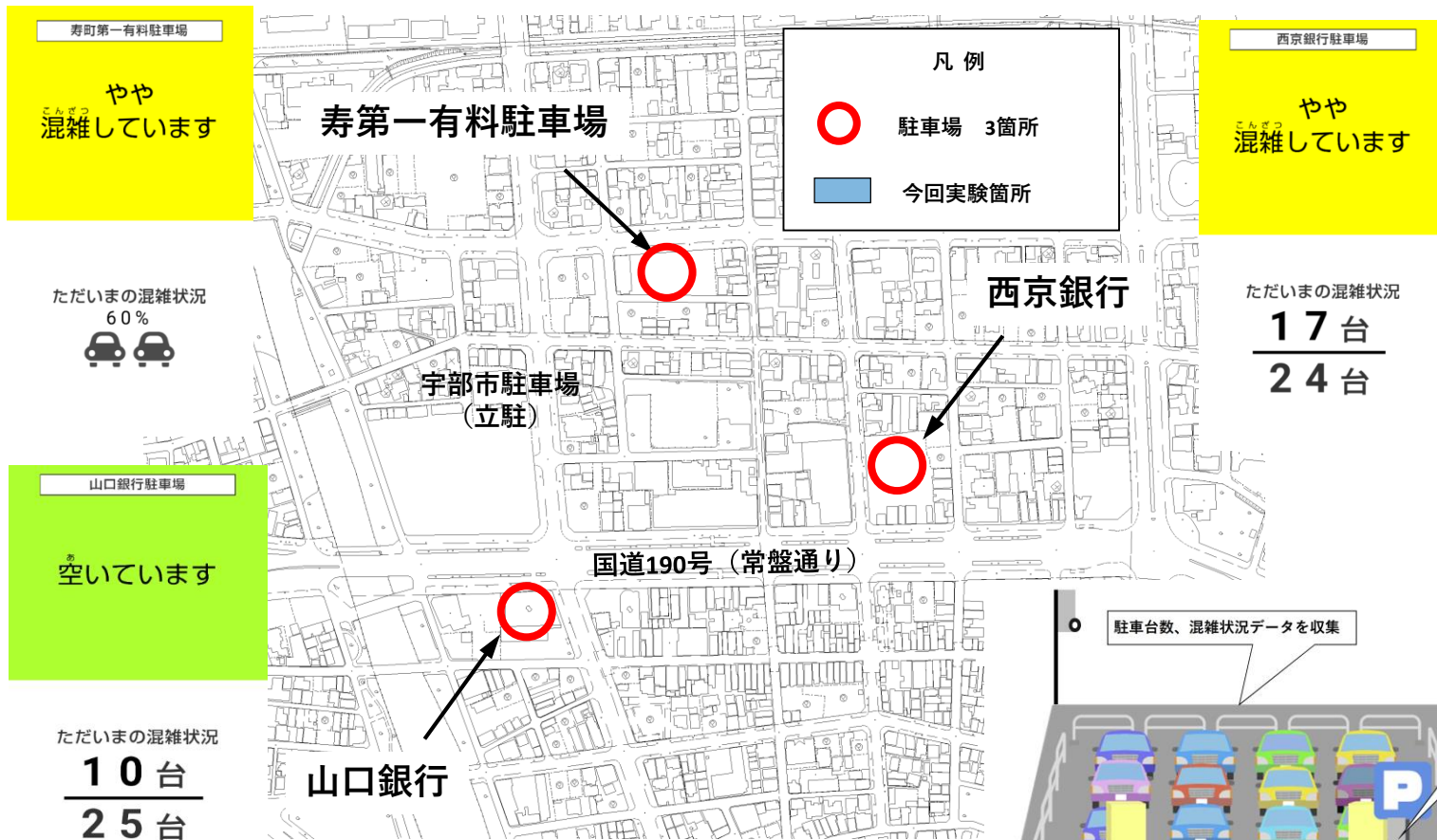
【評価】

- ・安全性に問題は無く、乗車率は目標値10人 / 日を上回った。
- ・大型イベント時の利用は多かったが、平常時は少なかった。

3. 実験内容および結果

【実験項目②】 AIカメラによる駐車場混雑度の情報発信

■ 周辺駐車場の混雑度をリアルタイムで情報発信



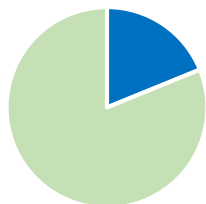
⇒ 駐車場利用者の満足度および駐車場稼働率を検証

3. 実験内容および結果

【実験項目②】 AIカメラによる駐車場混雑度の情報発信

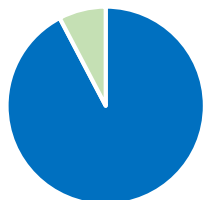
■ 駐車場利用者へQRコードを用いたアンケート調査

Q. 駐車場の混雑状況をウェブサイトで見ましたか。



見た 13件 / 69件 \div 19%

Q. 見た方は役に立ちましたか。(目標70%以上)



役に立った 12件 / 13件 \div 92%

■ 駐車場稼働率調査 (寿第一有料駐車場、山口銀行、西京銀行) (目標30%)

令和4年度 25% (平均稼働率)

令和5年度 32% (平均稼働率)

【評価】

- ・ 駐車場混雑度の情報が役に立つことが確認できた。
- ・ 駐車場平均稼働率が令和4年度と比べ上がった。
- ・ ウェブサイトの閲覧者数が少なかった。

3. 実験内容および結果

【実験項目③】 歩行者通行量

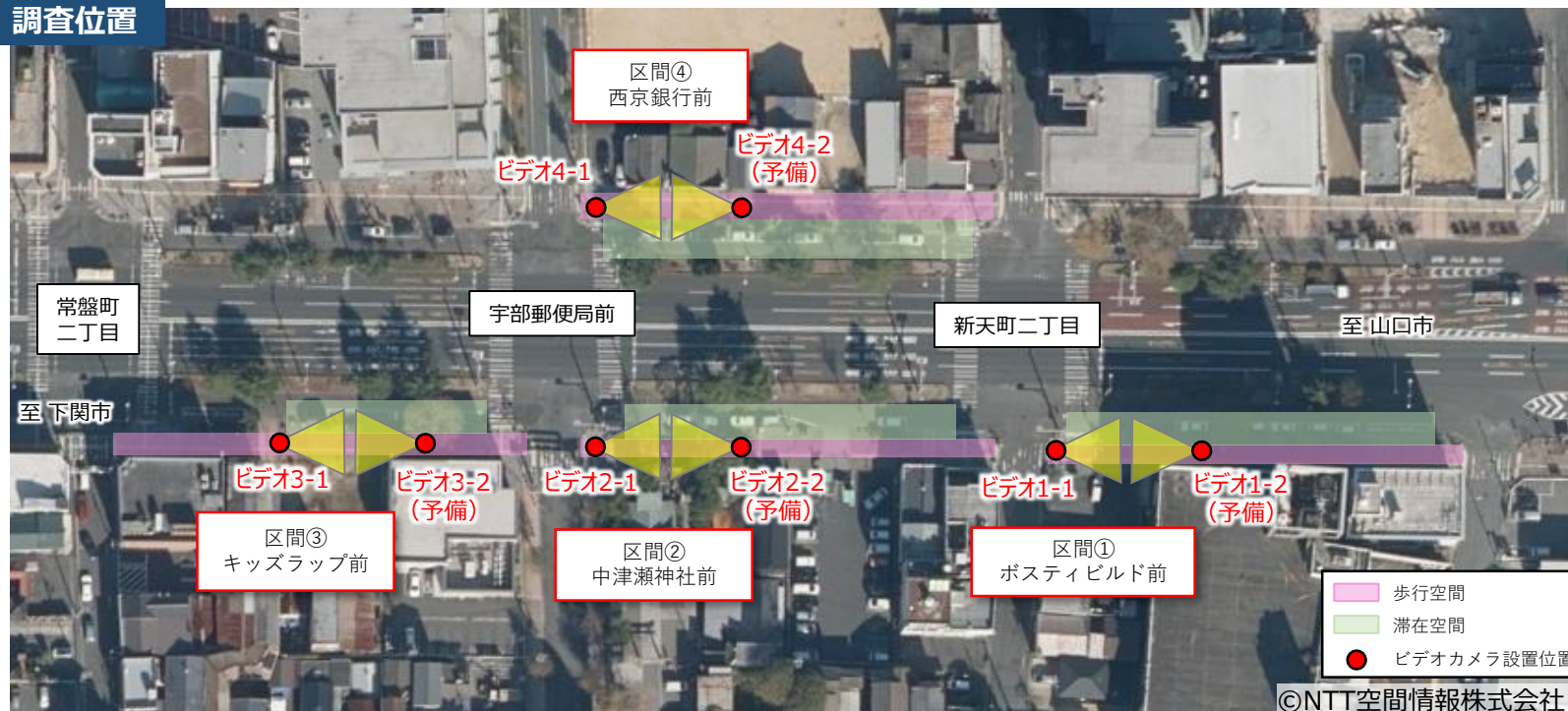
調査内容

- 社会実験を実施する4区間について、社会実験前、社会実験中の歩行者・自転車の交通量を調査した。
- 歩行者・自転車の交通量は30分単位、属性別（性別・年齢）に集計した。

	内容	備考
調査箇所	常盤通り内の歩道4区間	
調査日数	5日（社会実験前、実験中）	
調査時刻	9:00～18:00（9時間）	
調査項目	歩行者・自転車の方向別交通量	30分単位、属性（性別・年齢別）

社会実験前	休日：9/15（金） 平日：9/17（日）
社会実験中	平日：10/5（木） 休日：10/14（土） イベント日：10/22（日）

調査位置

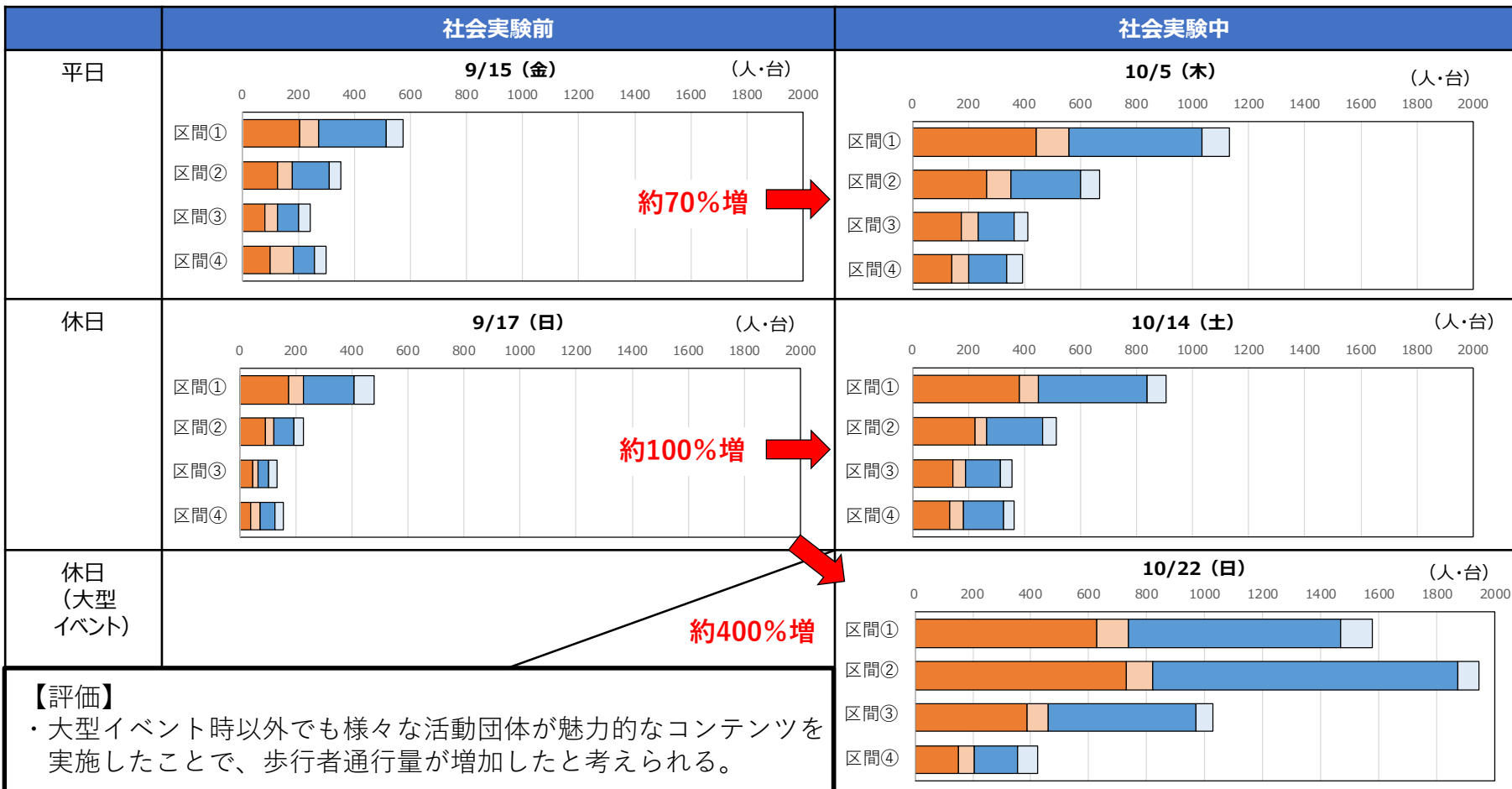
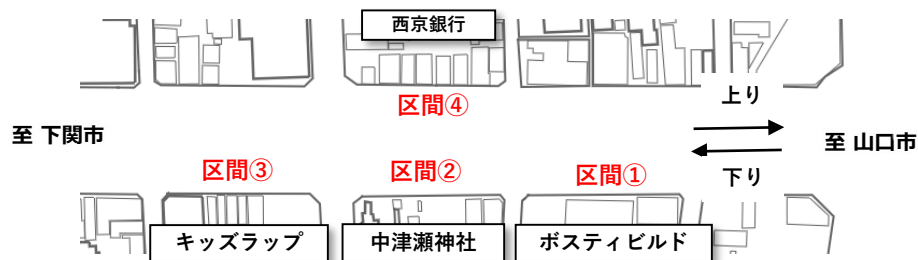


3. 実験内容および結果

【実験項目③】 歩行者通行量

区間・日別 歩行者・自転車交通量 **目標 10%以上増**

- 歩行者 (下関市⇒山口市)
- 歩行者 (山口市⇒下関市)
- 自転車 (下関市⇒山口市)
- 自転車 (山口市⇒下関市)



3. 実験内容および結果

【実験項目④】 AIカメラによる滞在空間の利用状況の分析

■ときわいこっと。3の滞在空間の利用人数（箇所毎に30人／日以上）

9/23～9/24（2日間） 約4,500人
※参考：パルクール日本選手権の来場者数2万4千人

9/25～10/22（28日間） 約8,300人（約300人/日）

【箇所毎の内訳（9/25～10/22）】

キッズラップ前	1,640人（59人/日）
中津瀬神社前	1,927人（69人/日）
西京銀行前	1,257人（45人/日）
ボスティビルド前	3,427人（123人/日）



AIカメラによる映像

※特に、ボスティビルド前のトランポリンの利用が多かった。
※休日の利用は1日を通して比較的一定であり、平日の利用は15時以降が多かった。

合計（30日間） 約12,800人

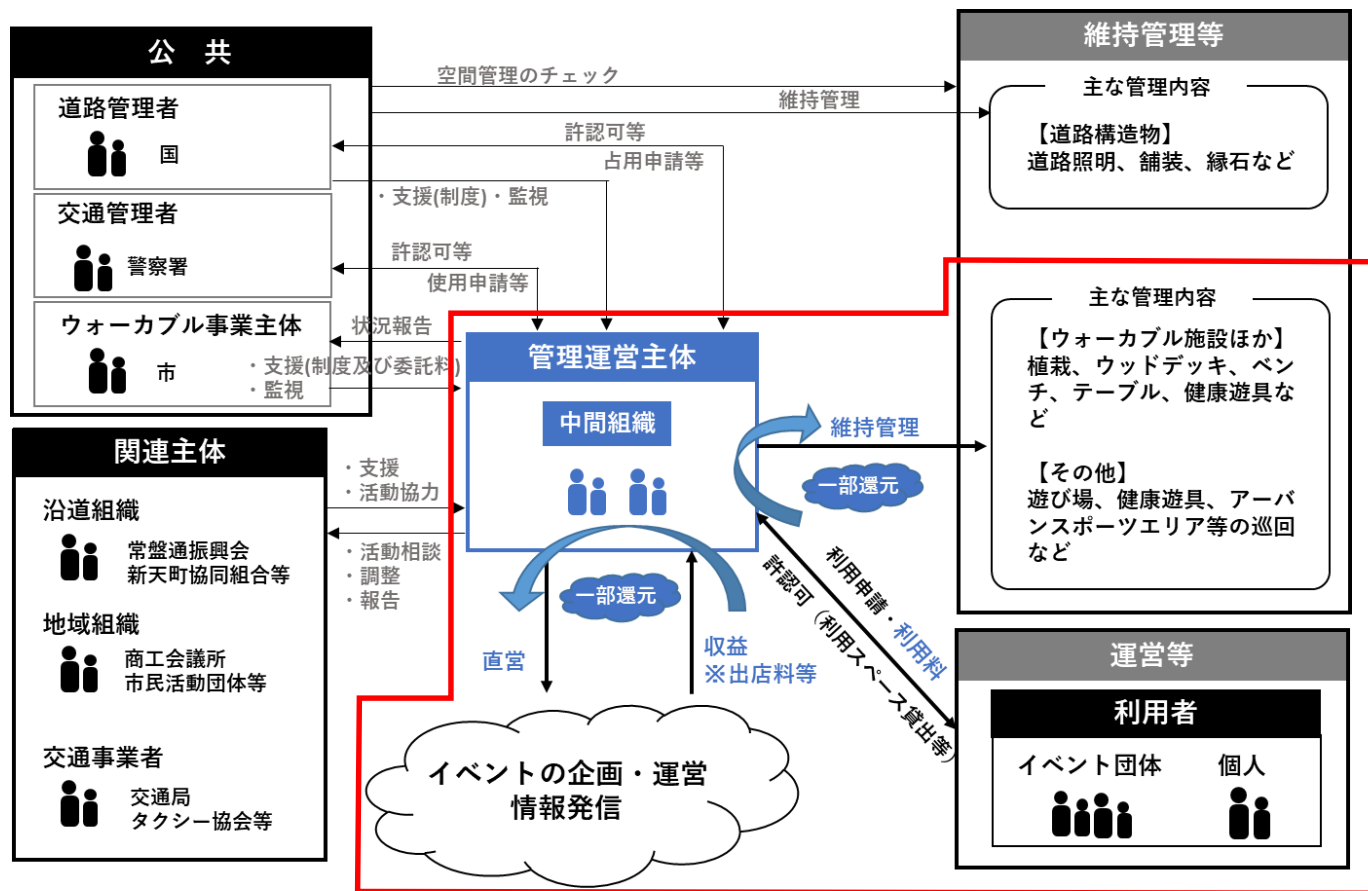
【評価】

- ・整備方針により近い形で滞在空間を設置したことで、大型イベント時以外でも利用が多かったと考えられる。
- ・AIカメラの設置により、終日の利用者を確認でき、利用状況の傾向を把握することにつながった。

3. 実験内容および結果

【実験項目⑤】 持続可能な管理運営

■(株)にぎわい宇部がモデル的に中間組織として社会実験の管理運営を実施



⇒管理運営の持続可能性について検証

今回の実験で実施した内容

3. 実験内容および結果

【実験項目⑤】 持続可能な管理運営

■ 今回の管理運営内容

隣接の空き店舗を管理事務所及び備品収納庫として使用

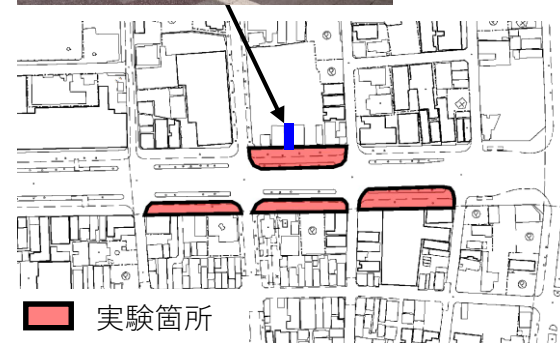
【にぎわい宇部職員1人役】

- ・ 滞在空間の設営、撤収
- ・ イベントの企画、運営
ときわいこっとウォーキング（はつらつ健康ポイント事業との連携）、
ハイハイレース、モルック大会、スケートボード体験会
- ・ 出店者（キッチンカー、マルシェ）及び利用者（活動スペース）募集（チラシ、SNS、HP、団体等に声掛け）、調整、サポート
- ・ 情報発信（SNS、HP）
- ・ 必要に応じ、現地対応

【現地スタッフ（学生アルバイト）1名】

- ・ 勤務時間9:30～18:30
- ・ 備品の日々の設置、撤去
- ・ 遊具やテーブル等の点検、清掃（1時間毎）
- ・ 植栽の水やり
- ・ 出店料徴収、市へ納入
- ・ ときわいこっとウォーキング受付（毎週火・木曜）
- ・ 出店者や利用者にアンケート調査

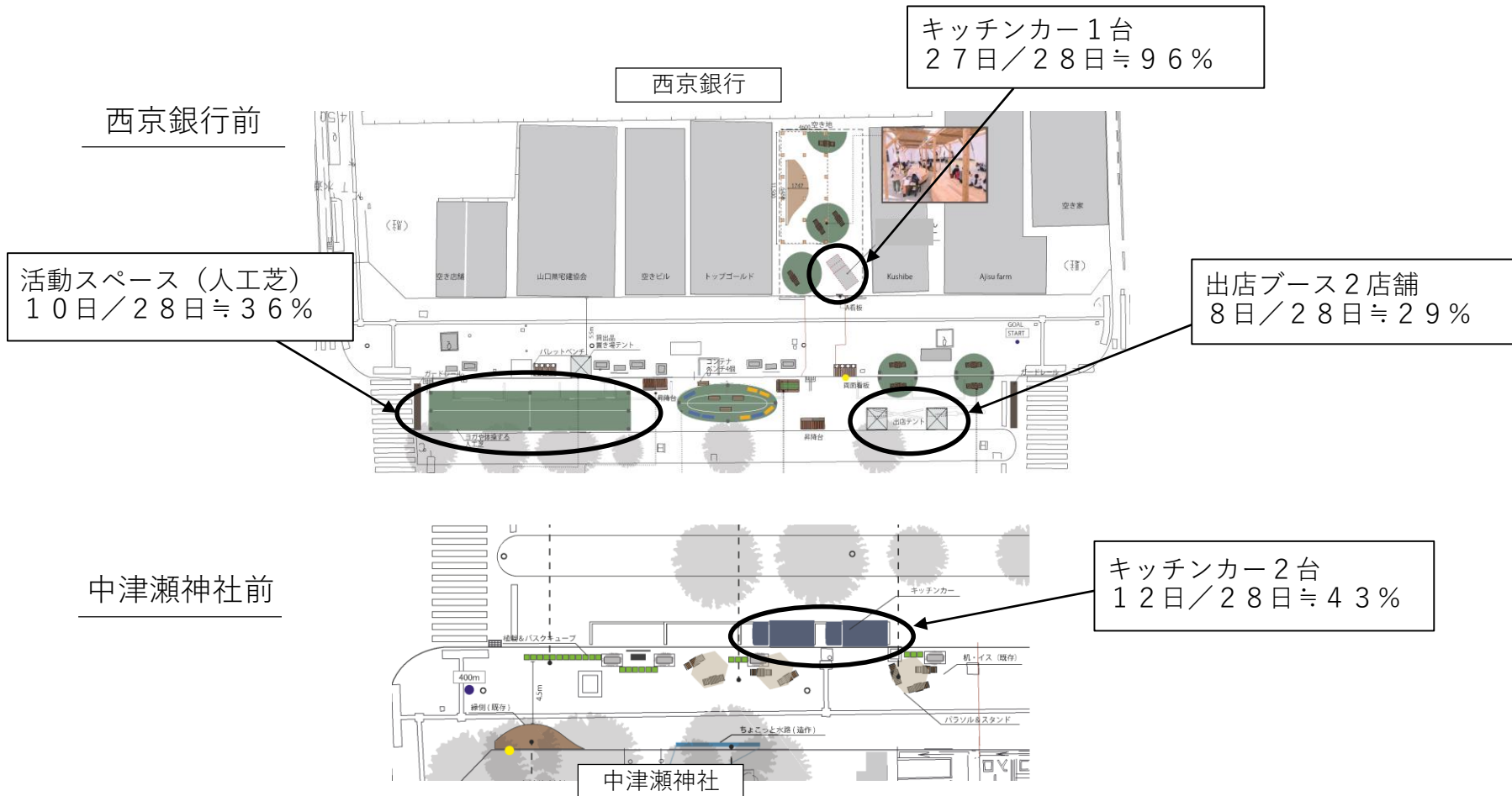
管理事務所及び備品収納庫



3. 実験内容および結果

【実験項目⑤】 持続可能な管理運営

■スペース貸出率（目標50%以上）



3. 実験内容および結果

【実験項目⑤】 持続可能な管理運営

■利用者へのアンケート調査による満足度（目標70%以上）

満足度 = 7件 / 20件 = 35%

出店者（キッチンカー、マルシェ）の意見

○満足の主な理由

- ・出店の良い経験になった。
- ・とても癒された。

●不満足の主な理由

- ・人通りが少なかった。
- ・下水の臭気が気になった。
- ・もっと広告してほしい。
- ・出店料が高い。

利用者（活動スペース）の意見

○満足の主な理由

- ・場所が広くて良かった。
- ・活動を知ってもらえて良かった。
- ・歩いている人が興味を示してくれた。

●不満足の主な理由

- ・地形が悪かった。

■(株)にぎわい字部の意見

- ・管理事務所と備品収納庫が近くにあり、管理業務を効率よく実施出来た。
- ・募集前は活動団体等への声掛けを行ったが、実験中は声掛けを継続出来なかった。

【評価】

- ・出店者や活動団体の需要が確認できた。
- ・利用者の満足度が低かったことや実験中に活動団体等への声掛けを継続できなかったことにより、貸出率が伸びなかったと考えられる。

3. 実験内容および結果

【実験項目⑥】 自転車と歩行者の通行の安全性

調査内容

- 社会実験を実施する4区間について、社会実験前、社会実験中の歩行者と自転車のヒヤリハットを調査した。
- 社会実験中はエリア流入部に自転車を押して歩いてもらうよう看板を設置した。

自転車と歩行者のヒヤリハット件数（目標0件）

9/15	(金)	0件
10/5	(木)	5件
10/14	(土)	0件
10/22	(日)	3件
合計		8件



※ヒヤリハットの多くが歩行者が道を塞ぎ、自転車通行を阻害するものだった。



■その他

- 歩行者通行帯や民地出入口前への駐輪あり
- バイクの歩道走行が12件、軽トラックの歩道走行が1件

【評価】

- 看板等により案内や注意喚起を行うことが必要である。
- 駐輪場とその案内が不足している。

3. 実験内容および結果

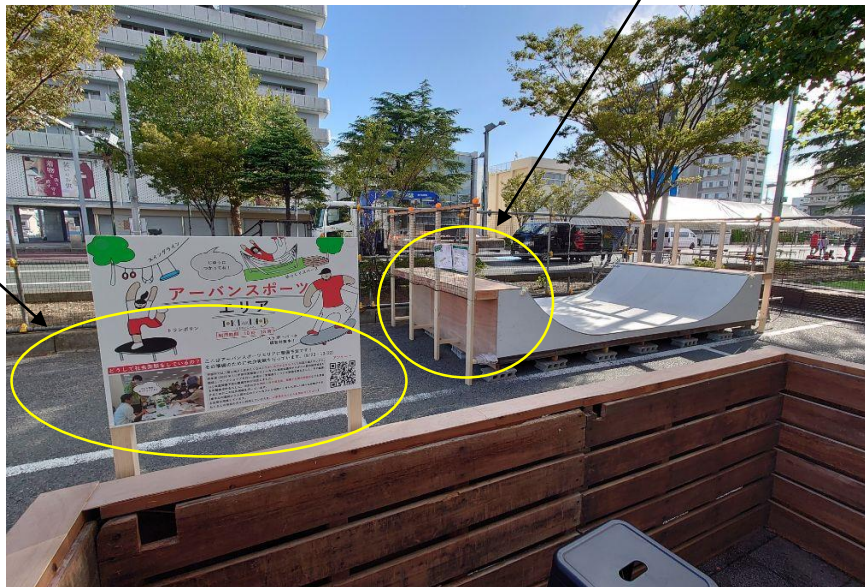
【実験項目⑦】 アーバンスポーツエリアの騒音対策

■ 騒音対策の実施内容

- ・ 舗装面はジャンプ禁止
- ・ ランプ以外のトリック設置無し

利用時間短縮
10時から18時まで

ランプ
背面を閉塞、単管パイプ内部を充填



⇒ アーバンスポーツエリアの騒音の低減効果を検証

3. 実験内容および結果

【実験項目⑦】 アーバンスポーツエリアの騒音対策

■音測定（目標65デシベル以下）

最大音（ランプ着地時）は多少減少した。

令和4年度 65～80デシベル

令和5年度 65～75デシベル

※自動車が通行していない時に測定

【参考】当該道路の自動車通行時の騒音65～70デシベル

■苦情件数（目標0件）

苦情件数 1 1 件（令和4年度）⇒苦情件数 4 件（令和5年度）

【今回の苦情内容】

- ・スケボー自体の音が騒音である。
- ・ランプ以外ではジャンプ禁止となっているが、ジャンプしている。
- ・18時を過ぎても騒いでいる。
- ・別の場所でやるべき、ボスティビルド前はやめてほしい。

【評価】

- ・利用時間の短縮などルール作りを行うことで、苦情件数が減ったと考えられる。
- ・苦情件数は減ったが、苦情内容は音の大きさよりも音の質やマナーの悪さに対するものであった。

3. 実験内容および結果

【実験項目⑧】 道路形態の変更による影響

パルクール日本選手権の開催による交通規制

車両通行止：9/23（土）0時～9/24（日）24時



周辺道路で
目立った渋滞や苦情の発生は無かった。

交通規制に対する苦情件数12件

苦情内容：営業に影響が出る、情報提供が不十分など

【評価】

- ・ 国道190号（常盤通り）の車道通行止について、約2ヶ月前に報道発表、約1ヶ月前から周辺住民への個別配布及び予告看板の設置を行い周知したものの苦情があった。

4. 今後の取組

4. 今後の取組

【実験項目①】新モビリティの運行

- ・大型イベント時など他のモビリティも含めた運行の可能性を検討していく。

【実験項目②】AIカメラによる駐車場混雑度の情報発信

- ・ウェブサイトの閲覧者数を増やす手法（周知方法や構成等）の検討を行う。

【実験項目③】歩行者通行量

- ・魅力的なコンテンツを更に充実させるとともに、大型イベントとの連携を図る。

【実験項目④】AIカメラによる滞在空間の利用状況の分析

- ・整備方針に掲げた滞在空間の整備を行う。
- ・管理運営を行うにあたっての利用状況の把握について、AIカメラを一つの手法として活用を検討していく。

【実験項目⑤】持続可能な管理運営

- ・管理事務所及び備品収納庫について、常盤通りの近くへの設置を検討していく。
- ・イベントの企画運営や情報発信を継続して実施するため、現地スタッフ（アルバイト）とは別に専属の職員を配置するなどの体制の検討が必要である。
- ・出店料の適正な金額設定や広告の手法を検討していく。

【実験項目⑥】自転車と歩行者の通行の安全性

- ・自転車と歩行者の通行について、ルール作り及びその案内（明示）方法を検討する。
- ・駐輪場を整備し、駐輪場所の案内（明示）方法を検討する。

【実験項目⑦】アーバンスポーツエリアの騒音対策

- ・舗装材は音を抑えられる素材を検討し、ルール作りを十分に行うことで、沿線住民等の理解を得る。

【実験項目⑧】道路形態の変更（国道190号の車両通行止）による影響

- ・今回行った広報の手法に加えて、他に活用できる広報手法を検討する。